

希望郷いわて国体冬季大会を振り返って

盛岡市

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会盛岡市実行委員会 会長

盛岡市長 谷藤 裕明



成年男子500m、1000mで3位の池田晋一朗選手

21年ぶりの完全国体の幕開けとして、希望郷いわて国体冬季大会が関係する機関、団体等の御理解と御協力のもと、無事開催できましたことに厚くお礼申し上げます。

岩手県勢は冬季大会終了時点で天皇杯第4位となり、1988年以降の2巡目国体の中では最高の成績となり、本大会に弾みをつく幸先の良い結果にとっても嬉しく思っております。また、選手の活躍は岩手県民、盛岡市民に大きな感動と勇気を与えるとともに、本大会での活躍を目指す他の選手にとっても良い刺激となるものであり、来る本大会に向けて大いに奮起し、活躍していただくことを期待しております。

冬季大会スケート・アイスホッケー競技会開催期間中は競技関係者はもとより市民やボランティアが一丸と

なって大会を支えていただきました。また、選手、監督への記念品として「さんき踊りとふっちストラップ」を贈呈するとともに、地元食材を活用したおふるまいの提供や選手への応援メッセージが書かれたのぼり旗を飾ったことが大変好評でした。全国から訪れた多くの方々を歓迎するムードにあふれて、あらためて国体が地域の魅力を発信できる大きな機会であると強く感じたところです。

本大会においても盛岡を訪れる方々をおもてなしの心でお迎えし、盛岡の魅力を伝え、「また盛岡を訪れたい」と思っただけよう強くアピールしていきたいと考えており、皆様の御協力を頂き、大成功に終るようこれからも準備を進めてまいりたいと存じます。



花巻市

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会花巻市実行委員会 会長

花巻市長 上田 東一



成年男子 岩手 vs 石川

希望郷いわて国体冬季大会アイスホッケー競技会は、1月27日から31日まで盛岡市アイスリンクや当市の石鳥谷アイスアリーナなど3会場で成年26チーム、少年13チームが参加して熱戦が繰り広げられました。

石鳥谷アイスアリーナでは、大会期間中に市内小学生・中学生の学校応援695人を含め延べ約4千人にご観覧いただき、「氷上の格闘技」といわれるアイスホッケー競技の醍醐味を十分堪能していただきました。

来場者へのおもてなしとして、大会期間中毎日、郷土料理の「ひつみつみ汁」を振る舞い、29日には「花巻雑穀の日&ひえカレープロジェクト」に関する取り組みとして、市内学校給食とも連携し、「ひえカレーひつみつみ汁」を提供しました。

また、会場には、東北有数の温泉郷である当市の雰囲気を感じ出すため、「足湯」を設置し、本場の源泉の湯を体感

していただきました。

さらに、心温まる選手との触れ合いとして、八重畑小学校3年生が総合学習で取り組んできた「りんご丸かじり事業」で収穫した絵付けりんごを17チームにプレゼントしました。後日、選手団から感謝とお礼の手紙が小学校に届き、大会を通じて交流の輪が広がったことを大変うれしく思っております。

今回の希望郷いわて国体冬季大会アイスホッケー競技会は、多くの関係者の皆様のご協力により、大会運営そのものも順調に進み、一般来場者の方々にもたいへん喜んでいただけたものと思っております。

この流れを本年10月の希望郷いわて国体本大会や希望郷いわて大会につなげるよう、準備を進めてまいります。



